

## ピースクラブ通信

No.26

発行 社会福祉法人 ピースクラブ  
 住所 〒556-10014 大阪市浪速区大田1丁目11-1  
 連絡先 Tel & FAX 06-6647-2077  
 Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

## 宮古から、ご無沙汰です。

中村晋作

去年の暮れ12月13日に宮古に渡ってきょうでちょうど5ヶ月になります。ピースクラブ在職中はたいへんお世話になりました。11月の個展が終わって息つく暇なく荷造り、引越し、荷物の片付け、各種手続き……などなど。最初3月末まで大阪に籍を置いておく甘い考えでいろいろご迷惑をおかけしましたが、まずは生活に必

要な要素を整えていくだけで精一杯でした。いまはそれもひと段落して、日常の時間の感覚に戻りつつあります。

映画館は一館だけ（まだ行っていないけど）。買い物などどこかに出かければ必ず知人に会う。私ぐらゐの感覚では全体を把握するにはちょうどいい大きさのようには思えます。

か」とか「何が上等で何が下等か」と考えてしまふ私など、あまり使えない言葉です。しかし、この春の選抜高校野球で優勝した興南のナインが空に突き上げた人差し指のように、こちらでは素直な気持ちの表現として聞こえてきます。

また、宮古の地元紙を見ると、個人名でラサール校に合格したなどと、微笑ましい記事もありますが、寄せられる投稿を読むと、文化的水準の高さを感じ

「とてもわかりやすい」と言ったら、「それは朝子さんのことです」と笑われた。宮古島市は5つの島を合わせて、人口が5万余り。スーパーは多いけど

会話の中で耳に付くのは「いちばん」「上等」という言葉です。内地でいう「最高！」や「素晴らしい！」の意味合いで使われますが、「いちばんがいい事が、

また、宮古の地元紙を見ると、個人名でラサール校に合格したなどと、微笑ましい記事もありますが、寄せられる投稿を読むと、文化的水準の高さを感じ

また、宮古の地元紙を見ると、個人名でラサール校に合格したなどと、微笑ましい記事もありますが、寄せられる投稿を読むと、文化的水準の高さを感じ

ピースクラブでは、オーストラリアに始まり、キューバ、ベトナム、韓国と、いろいろなところに旅をさせてもらいました。そしていまは、宮古への旅を終わり、自分自身の中への旅を、さらに奥深く進めてゆこうと思えます。（元6階住人）



▲おいしい米になりますように！！



▲案の定この人は泥んこに！



▲はじめるぞ！！



▲どっこいしょ！  
よっこらしょ！！



▲よそ見をするんじゃないぞ！



▲今からがんばるぞ！！

# ●ピースクラブ写真館●

☆ 島ヶ原田植え

ピース総出！！  
お昼にみんなが食べているお米を作り島ヶ原へGO！！

ピースクラブ

- 6月18日(金)  
佐渡山豊と今、考える
- 6月19日(土)  
あほまつり
- 6月26日(土)  
若者が沖縄文化を考える  
名城大学(古典舞踊・歌)
- 7月11日(日)  
水の学習会
- 7月17日(土)  
スイッチ会議

→ピース！初参加の  
フミコさんです、  
よろしくね！！



→いえー！！乾杯



☆めぐりと一緒に大阪城でお花見です！！

→この肉最高！！



▲焼肉の用意、ご苦労様！！

みんなの笑顔！

よかったよかった

大きな桜の木下でわいわいがやがや！  
みんな楽しく食べて飲んでの大騒ぎ！！最高でした！！

→ボク、酔っ払って  
ます



▲私たちも酔ってます！

→桜の下のビールは  
美味しいよ！！



▲お肉とビールと最高の  
笑顔！！

日韓中比による「アジア国際交流大会」が、中国吉林省延辺

州延吉市で5月14日から17日までの4日間開かれました。日本か

らは共同連のメンバー約60名が参加し、ピースクラブからは5名が

# アジア国際交流大会に参加して

板谷英夫

→ 一升瓶片手に振り舞い酒!!!



▲お肉焼き、ありがとう!!!  
板谷夫妻にカンパイ!!!



▲久々のガイヘル参加!  
おなか一杯! 食べすぎだー

→ 焼いても焼いても追いつかない! みんなすごいなあ!



参加しました。5月13日午後関空からインcheon空港に、ソウルで一泊して翌日再びインcheonから延吉空港に、空港では延辺身体障害者協会の歓迎を受けました。同じ飛行機にはフィリピンや韓国の参加者も乗っていて、空港から大会の交流が始まった。

今回の交流大会は、民間の草の根交流を通じてアジアにおける障害者の現状とその課題について障害当事者が自由に議論し実践的な方策を模索することでした。特に、国家体制の違いや中国の障害当事者の生の声をどれだけ聴くことができるかという点も、私だけ

なく他の参加者の関心です。そして、日本の福祉が常に欧米ばかりに関心を向け、アジアに目が向いていない現実の中で、いまだ4国だけの少数派ですがここで議論される共通の理念が今後アジアにどのような普遍化していくのかも興味深い関心事です。欧米の福祉をまねることに血道をあげている専門家や、当事者の心を細分化して技術論ばかりを声高に言うことが福祉の進歩だというベクトルを、同じ大きな逆方向の二つのベクトルを見据えたアジアスタンダードの価値観が、「認



識には必要ではと思える。

史観の話はこれくらいにして、交流会の話にもどる。14日午後から中国の福祉政策の報告が行われた。15日午前には韓国・日本・フィリピンの福祉の現状が報告され、それを踏まえて午後からは3つの分科会に分かれて議論をした。①障害者の労働権参加の拡大、②アジア地域での社会的企業の可能性、③障害者が参加しやすい起業、会議用資料も韓国の障害友権益問題研究所(リドリク)が、3ヶ国語で小冊子を準備されていて、十分ではなかった通訳の補助ができていたの

も、この会議にかけるとができた。分科会の意見を持ち寄り全体で討議した折は、中国の福祉政策と現状について韓国や日本の参加者から何度も質問が出された。また、この大会の課題(アジアの障害者の社会的経済的格差の問題)が、新自由主義経済に飲み込まれることなく独自性を貫くには今後どのような自分たちの戦いが必要で、その方法とはという意見も出された。残念ながらこの答えは簡単ではなく、課題として残された。

16日は3つのグループ(延辺市・蕪春市・滝井市)に分かれて、

障害者の日の記念行事に参加したり、支援学校の見学や民間の障害者施設の訪問をした。午後は観光も兼ねてピース組はユン・トンジュの生家や北朝鮮の国境へも出かけた。川一本を隔ててそこには北朝鮮の農村が見え、中国と北朝鮮を結ぶ一本の橋があり、緑と白に塗り分けられた橋に緑側が中国であり白から向こうは北朝鮮だと説明された。延辺州は朝鮮民族がたくさん住んでいる地方で、緑と白が川が民族を隔てるというこの風景に複雑な思いがした。同じグループできている韓国の参加者にはどのように見えた

のであろうか。何をすんでもなく国境の見える展望台で、夕方私たちは午前中訪問した障害者施設を再度訪問し夕食の招待を受けた。身寄りのない障害者が暮らすホームとあった感じで30名ほどのホームは延辺州で初めての民間施設で真新しい、責任者の意気込みも感じられる。中国での福祉も最前線というか現場では官民を問わず人が資本だと感じる。利用者も日曜日ということもあってか

のんびりとした時間を過ごしていた。私たちがまたのんびりと片言の英語などを交えながら、交流会参加者との楽しい夕食をとった。話が前後してしまったが、言葉の壁があるときはともに食事とするに限る。14日の歓迎の夕食、15日の交流会の夕食と円卓を囲み、酒を酌み交わし、カラオケし合わせて踊り、少し難しい話が続いた会議の後では、何よりもの交流である。

あけて17日は、ピース組と通訳のミヤンさんを残して日本人参加者が帰国するので、韓国の参加者と長白山に上る。5時間をかけて出かける。残雪の中でカルデラ湖の天池は水結んでいた。長白山は日本人とは違い韓国人々にはそれなりに思

